

1996 December

12



最後の冬の日々



田園に死す

特別企画

* 佐藤忠男アジア映画連続講座

* 中央アジア映画特集

特集

* 80年代の新しい映画監督たち

* 実験映画1960-1987

12月15日(日)

12月18日(水) / 12月23日(月) / 12月25日(水) / 12月27日(金)

12月1日(日) / 12月4日(水) / 12月8日(日)

12月11日(水) / 12月14日(土)



福岡市総合図書館
映像ライブラリー
NEWS

No. 6

特集 80年代の新しい映画監督たち

戦前から続く大手映画会社中心のスタジオシステムは、70年代あたりから映画業界の斜陽による日本映画の製作本数の低下に伴い、内部での新人、若手監督の登用がほとんど行われなくなっていく。映画監督高齢化の中1976年「青春の殺人者」で鮮烈なデビューを遂げた長谷川和彦は当時「30歳の映画監督登場」と騒がれた。80年代に入って自主映画製作やフリーの助監督などを経て、若手監督たちが次々とデビューする。これら当時の「新しい映画監督たち」の作品特集。

会 期：12月1日(日)～8日(日)
但し、12月2日(月)は休館日。
12月3日(火)は上映がありません。

観覧料：500円(大人)
400円(大学生・高校生)
300円(中学生・小学生)

※定員制、各回入替制。
※チケットはすべて当日券。前売り券はありません。
※福岡市在住の障害者の方は無料。また福岡市在住の65才以上の方は半額。(手帳の提示が必要です。)

12月1日(日) 11:00/15:00

太陽を盗んだ男

1979年/カラー 147分/キティフィルム
監督：長谷川和彦
出演：沢田研二/菅原文太/池上季実子

孤独な中学校の物理教師が、原爆からブルトニウムを盗奪。アパートの自宅で原爆製作に成功する。この原爆を使って彼は、政府を脅迫するが……。三十才で初監督し、その後の若手監督の先駆的存在となった長谷川和彦の監督第二作目。

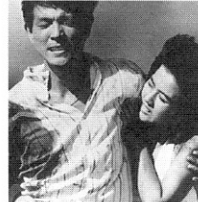


12月4日(水) 14:00/19:00

野蛮人のように

1985年/カラー 108分/東映
監督・原作・脚本：川島透 音楽：加藤和彦
出演：柴田恭平/薬師丸ひろ子

若い人気女流作家が、偶然から暴力団抗争に巻き込まれていく。福岡出身の川島透は俳優・金子正次が自ら脚本、自主製作した遺作「竜二」を三十四才で初監督、そして二作目に金子の遺稿を映画化した「チ・ン・ビ・ラ」で注目を集める。以降、娯楽性の強い作品を作り続ける。



12月5日(木) 14:00/19:00

家族ゲーム

1983年/カラー 106分/にっかつ撮影所
=ニュー・センチュリー・プロデューサーズ=ATG
監督・脚本：小栗康平 原作：宮本輝
出演：松田優作/伊丹十三/加賀まりこ

大学生の頃から8ミリ映画を撮り始めた松田優作は大学卒業後一人一人製作・上映活動を開始し、1981年、「の・う・な・の・」で35ミリ映画初監督。本作「家族ゲーム」は松田優作演じる暴力家庭教師が、平凡な家庭に現れて起こる物語で各種映画賞を総なめした。

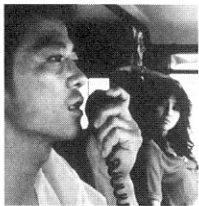


12月6日(金) 14:00/19:00

さらば愛しき大地

1982年/カラー 134分/プロダクション
群狼=アトリエダンカン
製作・監督・脚本：柳町光男
出演：根津甚八/秋吉久美子/山口美也子

高度経済成長下の農村で、一人の平凡な男が覚悟を込めて、幻滅の末ついに殺人を犯す。柳町光男はフリーで仕事をした後、1974年プロダクション群狼を自ら設立、ドキュメンタリー作品も含む問題作を2、3年に一本のペースで撮り続けている。



12月7日(土) 11:00/15:00

転校生

1982年/カラー 112分/日本テレビ=ATG
監督：大林宣彦 原作：山中恒
出演：小林聡美/尾美としのり/佐藤充

大林監督の尾道シリーズの第一作。ある日突然高校生の男女の心が入り替わることになる青春喜劇。大林は自主製作、実験映画からTVCFを経て劇場映画へ進出。80年代の映画少年達にもっとも影響を与えた映画監督の一人である。

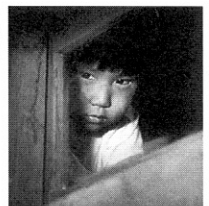


12月8日(日) 11:00/15:00

泥の河

1981年/モノクロ 105分/木村プロダクション
監督：小栗康平 原作：宮本輝
出演：田村高廣/藤田弓子/加賀まりこ

宮本輝の太宰治賞受賞小説の映画化。1956年の大坂・安治川の河口に住む貧しい人々の生活を描く。小栗は大学卒業後フリーの助監督、TV映画演出後、「泥の河」で監督デビュー。この作品は日本はもとより海外でも高い評価を得、モスクワ映画祭銀賞など受賞する。



特集 実験映画 1960-1987

日本の実験映画は1955年製作の抽象映画「キネカリグラフ」に始まると言われている。映画の持つ視覚表現の多様性に注目し、映像による映像の実験を意図して作られた作品が後年、実験映画と呼ばれ、16ミリや8ミリフィルムシステムの普及と、1960年代後半のアンダーグラウンド・ムーブメントに呼応する形で活性化していく。一口に実験映画と言っても幅広く、様々な試みがなされているが、時代別に見るとその時代、その時代の共通項が見えてくるのではないだろうか。そしてそれは実験映画という狭い観点ではなく、広く芸術、文化の中に共通項としてあった“何か”であろう。

会 期：12月11日(水)～14日(土)

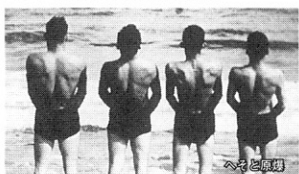
観覧料：500円(大人)
400円(大学生・高校生)
300円(中学生・小学生)

※定員制、各回入替制。
※チケットはすべて当日券。前売り券はありません。
※福岡市在住の障害者の方は無料。また福岡市在住の65才以上の方は半額。(手帳の提示が必要です。)

12月11日(水) 14:00/19:00

プログラム1 1960年代の実験映画(93分)

この時代の作品はシュールレアリスムや、ダダイズム、アメリカの戦後のアンダグラウンド映画の影響が強い。また実験映画のフィールドから、TVCFなどを経て一般映画の監督となった大林宣彦の活躍や原哲人が戦後16才で撮った処女作「おかしさに彩られたバラード」でフィルム・アート・フェスティバル東京68のグランプリ獲得など、同世代の映画少年に多大な影響を与えた。その中には森田芳光など後年一般映画で活躍する監督などもおり、80年代以降の日本映画の新しいムーブメントの萌芽としての意味も大きい。

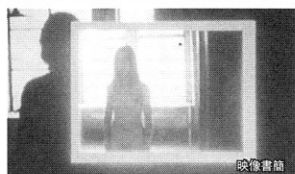


- ▶「へそと原爆」 細江英公
1960年/16ミリ 14分
- ▶「猶予、もしくは影を撫でる男」 奥村昭夫
1967年/16ミリ 27分
- ▶「伝説の午後-いつか見たドラキュラ」 大林宣彦
1967年/16ミリ 39分
- ▶「おかしさに彩られた悲しみのバラード」 原哲人
1968年/16ミリ 13分

12月12日(木) 14:00/19:00

プログラム2 1970年代1(96分)

70年代に入った実験映画は、学生運動の先鋭化と挫折と相対した形で上映形態、作品の内容ともに変化していく。草月アートシアターで66年から毎年開催されていた実験映画祭は、69年学生運動のあり方を受けた形で中止され、実験映画上映活動の中心は映像作家同士を中心に組織化された団体やまったくの個人上映などになる。作品もアグレッシブな作品は数が減り、作家自身の内面性、内向性を追求していく作品が主流になっていく。海外の実験映画がほとんど紹介されなくなり、作品は日本独自の深化を遂げていく。



- ▶「新・北帰行」 かわなかのぶひろ
1974年/16ミリ 15分
- ▶「日没の印象」 鈴木志郎康
1975年/16ミリ 25分
- ▶「ANOTHER LIFE」 中村雅信
1976年/16ミリ 11分
- ▶「幻視景序説」 田名網歌一
1978年/16ミリ 20分
- ▶「映像書簡I」 かわなかのぶひろ・萩原明美
1979年/16ミリ 25分

12月13日(金) 14:00/19:00

プログラム3 1970年代2(102分)

70年代の日本のアンダーグラウンド・ムーブメントを語る際に、寺山修司の名を外すことは出来ないだろう。詩だけにどまらず、エッセイ、評論、演劇など様々なジャンルで活動したこの天才は、実験的、前衛的な映画も数多く監督している。また当時彼が主宰していた劇団「天井桟敷」の地下劇場を安い料金で実験映画の上映団体などに貸し出すなどの理解を示した。「田園に死す」はその当時寺山自ら製作・原作・脚本・監督した映画で虚構と現実、日本的風景と見せ物小屋的喧嘩など、寺山修司の世界の頂点をなす作品である。



- ▶「田園に死す」 寺山修司
1974年/35ミリ 102分

12月14日(土) 11:00/15:00

プログラム4 1980年代1(88分)

実験映画は80年代に入ると日本の実験映画は海外で大きく注目されていく。70年代の海外から隔絶された状態の中で独自の多様性を獲得した結果である。芸術系大学などの映像教育に実験映画が取り入れられ、多くの作家、作品がその中から育っていく。60年代、70年代に獲得した表現形式が映画のための映画、イメージの再構築の手段としての手法のレベルまで還元され、クオリティの高い作品が作られていく。



- ▶「わが映画旋律」 奥山順市
1980年/16ミリ 6分
- ▶「SPACY」 伊藤高志
1981年/16ミリ 10分
- ▶「SIFT」 松本俊夫
1982年/16ミリ 9分
- ▶「影踏み」 居田伊佐雄
1983年/16ミリ 15分
- ▶「悲しいガルドフ」 山田勇夫
1984年/16ミリ 20分
- ▶「Xerophilie」 森下摩郎
1985年/16ミリ 11分
- ▶「動(MOVE)」 相内啓司
1986年/16ミリ 7分
- ▶「MODEL」 手塚真
1987年/16ミリ 10分

特別企画 佐藤忠男アジア映画連続講座

アジア映画評論の第一人者・佐藤忠男による
アジア映画史。アジア各国の民族・歴史・文化
と映画との係わりを語る、3回連続講座。

会 期：12月15日(日)

観覧料：無 料

参加方法：ハガキ、FAX、電話で12月10日(必着)
までに氏名、電話番号を添えて福岡市
総合図書館映像資料課までお申し込み
下さい。

第1回 講座 13:30

中国映画について

参考上映：「大いなる路」

1934年/中 国

モノクロ サウンド版 110分

監 督：孫 瑜

講師 佐藤忠男
(映画評論家)



都会で仕事にあふれた若者が、地方の道
路工事に志願する。働く者の連帯や愛と
友情が織り込まれた一種の青春ドラマ
であり、孫瑜監督らしく軽快なテンポで
見せる。しかし中心のテーマは抗日であり、
労働者階級が抗日に立ち上ることを意
味している。

第2回 平成9年2月9日(日) 13:30

講 座：インド・東南アジアの映画について

参考上映：「傷あと」

1977年/カラー 130分/タ イ

監 督：チュート・ソンシー

第3回 平成9年3月9日(日) 13:30

講 座：韓国映画について

参考上映：「開闢」

1991年/カラー 135分/韓 国

監 督：林権澤

特別企画 中央アジア映画特集

ソ連邦崩壊後中央アジアにおいては急速に自由な映画作り
が進展した。今や各共和国ではソ連邦時代の検閲制度もなく、
独自に製作された映画が世界に送り出されている。そこにあ
るの若い感受性の創造への発露であり、中央アジア文化の
多様性である。

フィルム提供：国際交流基金

協 力：財団法人国際文化交流推進協会(エース・ジャパン)

会 期：12月18日(水)～27日(金)

但し12月24日(火)は休館日

観覧料：500円(大人)

400円(大学生・高校生)

300円(中学生・小学生)

※定員制、各回入替制。

※チケットはすべて当日券。前売り券はありません。

※福岡市在住の障害者の方は無料。また福岡市在住の65才以上の方は半額。
(手帳の提示が必要です。)

12月18日(水) 14:00

パンの列車が来る

1991年/カラー 10分/カザフスタンドキュメンタリー
監督：エルサイン・アブドラマノフ



主人公であるパンの販
売員は約330キロの列車
の区間のパンの販売を担
当している。この区間
には製パン所はなく人々は
先を争ってパンを買わね
ばならない。

12月18日(水) 14:00

小さなアコーディオン弾き

1994年/カラー・モノクロ 86分/カザフスタン
監督：サトバルディ・ナリムベトフ



第二次大戦直後のカザ
フの村。エスケンとい
う少年の成長の物語で
あると同時に、エスケ
ンという一人の少年の
目を通して大人社会が
描かれている。

12月18日(水) 19:00

砂嵐

1988年/カラー 95分/タジキスタン
監督：バコ・サディコフ



果てしない広大な大
草原を約束の地を目指
して旅する部族の物語。
ただしこの部族は実在
ではなく、監督の創作
であり、寓話的な物語
となっている。

12月19日(木) 14:00

イン・スペ/希望

1993年/カラー 86分/カザフスタン
監督：マラト・サルル



3人の兄弟とその父
の遺産である温室につ
いての物語だが、作品
世界はジム・ジャーム
ッシュを彷彿とさせる。
象徴的なプロットと世
界のどこでも撮れそ
うな人物及び舞台設
定が希薄な雰囲気
を構成する。

12月19日(木) 19:00

聖なるブハラ

1991年/カラー 128分/タジキスタン
監督：バコ・サディコフ



幻視能力を持つ少年
が見た幻想の物語。ブ
ハラとは監督自身の生
まれ育った町であり、
この少年は少年時代の
監督自身の姿でもあ
る。

12月20日(金) 14:00/25日(水) 14:00

夜明け前

1993年/カラー 124分/ウズベキスタン
監督：ユスフ・アジモフ



時代設定は現代であり、
農村の日常生活をリア
スティックに描いた作
品。監督は具体的な政
治状況や社会状況には
いささか離れ、ひたす
らウズベク農民の悲劇
的な人生を描いてい
く。

12月20日(金) 19:00

島

1993年/カラー 92分/タジキスタン
監督：バコ・サディコフ



アフガニスタンと国境
を接するタジキスタン
でも内戦が勃発。戦火を
避けて無人島へ疎開し
た家族の出会い奇妙な
出来事を象徴的に、あ
るいは寓話的に描いた
作品。

12月21日(土) 11:00/26日(木) 14:00

龍の島

1994年/カラー 52分/カザフスタンアニメーション
監督：ジャケン・ドネン/ガニ・キスタウ



芥川龍之介の短編「老
いたる素戔鳴尊(すさ
のおみこと)」を原作と
するアニメーション。監
督の二人は中国・日本
の聖絵に強く魅かれ、
それを取り入れた表現
を行っている。

12月21日(土) 11:00/26日(木) 14:00

最後の冬の日々

1993年/モノクロ 65分/カザフスタン
監督：ボラト・カリムベトフ/フラト・イサコフ

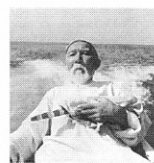


第二次大戦終結が迫
った1945年春。アケ
ジャンという少年と疎
開してきたワーディク
とマーシャという兄妹
の交流を描いた映画。
過酷な現実の中で少
年達の人間性の追求
が行われている。

12月21日(土) 15:00

カイプの最後の旅

1989年/カラー 91分/ウズベキスタン
監督：ファリド・ダブルトシ



アラル海に浮かぶある
島に住む漁師のカイ
プの物語。この映画
のエピソードはカイ
プの回想、夢、幻想と
混同しており、観客は
老人と共に非現実的
な空間を旅すること
になる。

12月22日(日) 11:00/27日(金) 14:00

鳩の乙女

1993年/カラー 63分/カザフスタン
監督：アミール・カラクロフ



カラクロフ監督はカ
ザフ・ニューウェーブ
として注目をあびる
新人監督。本作でも
主人公の若者ティム
ールが次第に狂気に
傾斜していく様が、
素晴らしいロングシ
ョットを織り交ぜて
描かれる。

12月22日(日) 11:00/27日(金) 14:00

ブランコ

1993年/カラー 48分/キルギスタン
監督：アクタン・アブディカリコフ



ブランコにのる少女
とそれを揺る少年と青
年。飛行と墜落、ブラ
ンコと貝殻等象徴的な
映像で描かれる作品。
93年ロカルノ映画祭
短編部門グランプリ。

12月22日(日) 15:00

お前は誰

1990年/カラー 85分/ウズベキスタン
監督：ジャハンギール・ファイズィエフ

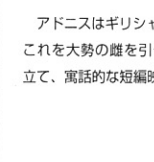


民族自立の機運が高
まる一方、いたる所に
犯罪がはびこるポスト
・ベレストロイカ期の
中央アジアの現状を
不条理劇の手法を借
りて描いた作品。

12月23日(月) 11:00

アドニス14世

1977年/モノクロ 9分/タジキスタン
監督：バコ・サディコフ



アドニスはギリシャ神
話にでてくる美青年。
これを大勢の雄を引き
連れて歩く雄の羊に
似て、寓話的な短編
映画として描いてい
る。

12月23日(月) 11:00

多感な季節

1988年/カラー 72分/トルクメニスタン
監督：ウスマン・サバロフ



オートバイで学校に
登校する少女アイナ。
学校や担任の教師への
不信感や生活に疲れた
母親といった環境中
の、アイナは自立を決
意する。プロダクト・
ラム・ピクチャーのよ
うに手堅くまとめら
れた映画である。

12月23日(月) 15:00

UFO少年アブドラジャン

1992年/カラー 88分/ウズベキスタン
監督：ズリフィカール・ムサコフ



この映画には「ステ
ィーブン・スピルバ
ーグに捧げる」という
副題がついており、
ロシア風の異星人
とのファースト・コ
ンタクトを描いたS
F映画である。

映像ホールスケジュール

月	日	曜日	内	容
12	1	日	80年代の新しい映画監督たち	11:00 太陽を盗んだ男 15:00 太陽を盗んだ男
	2	月	休館日	
	3	火	上映はありません	
	4	水	14:00 野蛮人のように	19:00 野蛮人のように
	5	木	14:00 家族ゲーム	19:00 家族ゲーム
	6	金	14:00 さらば愛しき大地	19:00 さらば愛しき大地
	7	土	11:00 転校生	15:00 転校生
	8	日	11:00 泥の河	15:00 泥の河
9	月	休館日		
10	火	上映はありません		
11	水	実験映画	14:00 プログラム1	19:00 プログラム1
12	木	1600-1607	14:00 プログラム2	19:00 プログラム2
13	金		14:00 プログラム3	19:00 プログラム3
14	土		11:00 プログラム4	15:00 プログラム4
15	日		13:30 佐藤忠男アジア映画連続講座「中国映画について」	
16	月	休館日		
17	火	上映はありません		
18	水	中央アジア映画特集	14:00 パンの列車が来る 小さなアコーディオン弾き	19:00 砂 嵐
19	木		14:00 イン・スペ／希望	19:00 聖なるブハラ
20	金		14:00 夜明け前	19:00 島
21	土		11:00 龍の島 最後の冬の日々	15:00 カイブの最後の旅
22	日		11:00 鳩の乙女 ブランコ	15:00 お前は誰
23	月		11:00 アドニス14世 多感な季節	15:00 UFO少年アブドラジャン
24	火	休館日		
25	水		14:00 夜明け前	
26	木		14:00 龍の島	最後の冬の日々
27	金		14:00 鳩の乙女	ブランコ
28	土	年末休館日		
29	日			
30	月			
31	火			

※満席の場合、入場をご遠慮いただく場合がございますのでご了承下さい。

中国映画回顧上映協賛

中国映画ポスター展～第5世代監督作品を中心に～

会場：福岡市総合図書館1階ギャラリー

会期：平成8年11月6日(水)～11月24日(日)

平成8年12月3日(火)～12月23日(月)

11月25日(月)～11月30日(土)は展示作品の入れ替えのためギャラリーは閉館。

観覧料：無料

休館日：月曜日（その日が休日のときはその翌日）

主催：福岡市総合図書館

協力：大映・東光徳間

世界中の注目を浴びる中国映画第五世代の監督作品を中心に、80年代以降の中国映画のポスターを展示。「黄色い大地」「紅いコーリャン」「李蓮英」等の中国版ポスターを多数展示します。

映像ホール利用申し込みについて

平成9年2月以降映像ホールで図書館の企画上映がない下記の期間は、映像ホールを有料で利用することができます。（但し映像文化の普及振興を目的とした非営利の映写会の利用に限る）

期間

平成9年

2月26日(水)～3月1日(土)ただし2月28日(金)は月末休館日

3月26日(水)～3月30日(日)

4月25日(金)～4月27日(日)

利用に関しては条件等がございますので、詳しくは福岡市総合図書館映像資料課TEL (092)852-0600までお問い合わせください。

映像ライブラリーNEWS送付のご案内

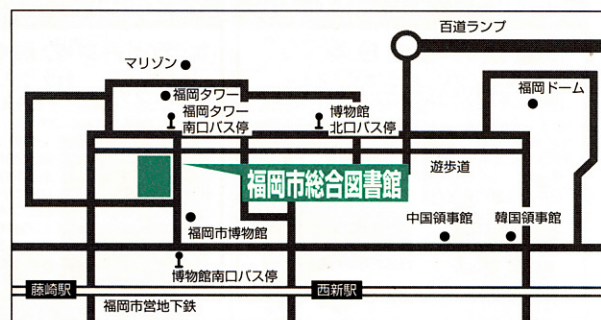
ただ今ご覧の「映像ライブラリーNEWS」及び映像ホール等で今後行われる各種イベントの情報を毎月（来年度3月号まで）無料で郵送いたします。（ただし要切手代）ご希望の方は希望の郵送開始月及び住所・氏名を明記の上、郵送手数料（90円×'97年3月までの月数：例 1月号からなら90円×3ヶ月＝270円）分の切手を同封して、下記の宛先まで送付してください。希望月より'97年3月まで毎月郵送いたします。

宛先：〒814 福岡市早良区百道浜3丁目7番1号

福岡市総合図書館映像資料課まで

なお、毎月当ホールの上映スケジュールポスターを掲示していただける店舗等も募集いたしております。

詳しくはTEL (092)852-0600 福岡市総合図書館映像資料課まで



交通機関

地下鉄西新駅および藤崎駅より徒歩15分

西鉄バス博物館南口および福岡タワー南口バス停留所より1分

都市高速百道ランプより車で2分

Fukuoka City Public Library Movie Hall

福岡市総合図書館映像ホール

福岡市早良区百道浜3丁目7番1号

●お問い合わせは

☎ (092) 852-0600

FAX (092) 852-0609